

クウェート留学体験記 柳井文司

はじめまして。東京外国語大学アラビア語専攻の柳井文司と申します。一年間クウェート政府奨学金奨学生としてクウェート大学の語学センターで学ばせていただきました。プログラムを終えたので体験記をここにまとめます。行く前と行ってみての二つのタイミングで考えていたことを書いていきます。

行く前に思っていたこと

まずは試験に関して、今年は電話面接がありました但し事前に詳しい内容は知らされていませんでした。いざ電話面接が始まってみると英語とアラビア語での会話で、心の準備ができていなかったのが非常に焦ったのを覚えています。本当に急だったので電話口でアラビア語を聞いた瞬間緊張から何を言っているのか自分も相手もわからないという困った事態になってしまいました。しかし担当の方が優しくゆっくり話してくれたので落ち着いてしっかりと話すことができました。試験までに電話口で外国語をしゃべることに慣れておくべきです。

クウェート政府奨学金に応募したのは、アラビア語のフスハーを重点的に勉強したかったからです。アラブ人はフスハーをしゃべってくれないとよく聞きますが、そうは言っても母語なんだからアーンミーヤがわからなくても普通にフスハーをしゃべってくれるんだろうと思っていました。これはクウェートに来てみて全く間違っているとわかったのですが、詳しくは後述します。

また、金銭的に無料で留学できる点も非常に魅力的でした。私の場合は往路が自己負担になってしまいましたが、基本的に往復の航空券はクウェートが負担してくれます。授業料、食費は完全無料で、それに加えて生活費として月100KD（約37000円）が支給されます。他のアラブの国に一年間留学する場合、一年で安くても約150万円かかりますが、クウェートを選択した場合、その金額が節約できるので留学資金のない大学生としては大変助かりました。生活費を節約して旅行費に充てることも可能です。

不安だったこともありました。アラビア語の授業についていけるのだろうか、ほかの国からの留学生とうまくやれるかどうか、団体行動が苦手だけど、寮生活に耐えられるのか、など。ほかの国から来てる人たちがものすごくアラビア語のレベルが高く置いていかれたらどうしようとか、自分だけアラビア語ができなくて友達になれなかったらどうしようなどをずっと考えていました。行ってみて不都合はほとんどなかったのが、今ではそこまで心配する必要はなかったなと思っています。

行ってみたらこうだった

クウェートで実際に暮らしてみて、行く前に思っていたクウェートとは全く違いました。まず、日常生活ではほとんどアラビア語を使いませんでした。タクシー運転手はバングラデシュ人が多く、レストランやショッピングモールではフィリピン人が多く働いているので大体英語でした。看板や広告は大抵アラビア語と英語が併記され、youtubeの広告にいたっ

ては英語音声にアラビア語字幕のものがほとんどでした。なぜここまで社会がバイリンガルになっているのかクウェート人の友達に聞いてみたところ、海外からの出稼ぎ労働者が多いのに加えて、とても驚いたのですが、教育熱心なクウェート人家庭の子供は小学校からアメリカンスクールやブリティッシュスクールに通うことが多く、そもそもアラビア語を学校で勉強しないらしいです。クウェート人が英語を理解するため、外国人労働者もアラビア語を話す必要がなく、結果として英語が広く使われるようになったとのことでした。それでもアラビア語は広告に使われたりクウェート在住のアラブ人（特にエジプト人）が話すので、日本でほぼ日本語だけで暮らしてきた自分にとって常に二か国語を使う生活は新鮮であると同時に、状況ごとに使う言語を切り替える必要があり慣れるまでは難しかったです。

クウェートではイスラム教に基づいてお祭りなどの行事が行われます。イスラム教には有名なラマダンがありますが、そのあとはイード（お祝い）期間があり、三連休になります。イスラムの制度で、ラマダン明けのイードは月を実際に観測して始まります。事前にほぼ日程はわかるのですが、休みは当日になって月を観測し休み開始のアナウンスがあってようやく始まるため、旅行を考える場合は予定を決めるのが少し大変かなと感じました。クウェートでは社会人になったら簡単に休みが取れるので有給を取ればそれまでですが、そうでない学生の場合は飛行機のチケットやホテルの予約など気軽にできずちょっと不便でした。

クウェートでは食が一番の娯楽です。レストランが非常に充実しています。厳格なイスラム教国なためお酒と豚肉は一切提供されず、高い（ディナーで一人約1300円～3000円）ですが、美味しいです。日本食レストランはいくつかあり、寿司は日本のものとほぼ同じ味が食べられますし、うどんそばもあります。meme's curryという名前の、日本のココイチのような味のカレー屋さんもあります。クウェート人の友達と何度も一緒に行きましたがいつも混んでいました。そこで食べられるカレーは本当に日本のカレーと同じ味がします。お米も日本と同じお米で同じ味です。店内ではjpopが流れるので、カレーを食べながら日本語を聞くことで少し日本を思い出しつつリラックスしていました。ステーキやハンバーガーなどのアメリカンレストランも大人気で、お酒落なshake shackまであります。カロリーが高い食べ物がかたくおいしいです。一度クウェートのレストランでご飯を食べれば、クウェート人の大きな体に納得がいくはずです。デリバリーサービスが普及しているため、食べたいものがあれば寮まで配達してもらえます。私はtalabatというアプリで注文していました。クウェートに来たら必ずインストールしましょう。

日本食に関して、寿司、天ぷら、鉄板焼きなどの高級日本料理に分類されがちなものはクウェートでも食べられます。しかし、豚料理はもちろん、チェーン店の牛丼、居酒屋の焼き鳥、和風おろしハンバーグ、中華料理屋のチャーハンなど、ジャンクフードだったり家庭料理てきなものが全く食べられません。日本でこれらはよく食べていたし、安いものだからクウェートでも簡単に手に入ると思っていたのですが、全然そんなことはなく、結局一年我慢しました。これらを我慢していたことがクウェート生活で一番つらかったかもしれません。クウェートに来る前に気のすむまで食べておくか、どうにかしてクウェートまで持ってくるべきだったなと後悔しています。

アラビア語学習に関しては、フスハーを集中的に学習することができました。語学学校のクラスは4つのレベルに分かれていて、私は下から二つ目のクラスで勉強したのですが、そのクラスでも最初から雑談くらいならできる人がほとんどでした。リーディングやライティングに関してはそれほどだったのですが、みんなよく喋るな、というのが最初に思ったことでした。一番上のクラスの人に関してはネイティブみたいな発音でスラスラしゃべってて雲

の上みたいなレベルでこれは追い付けないなんて思っていました。学生の傾向として、アジア人はリーディングが得意で、それ以外の出身者はスピーキングが上手というほぼステレオタイプ通りの状況で面白かったです。授業中もヨーロッパやトルコ、中央アジア出身者は積極的に発言していたし、よく日本人はシャイだとか言われる理由がわかりました。日本では先生が指名する順番を待って発言すると思うのですが、ヨーロッパとか中央アジア出身の学生は他人の発言にかぶせてまで発言していて、自分が話したいときに話すという感じでした。先生の許可を得たりすることはなくしゃべりたいときに自分から発言するので、そういう心構えの違いが積極性に現れてくるのかなと感じました。

私のアラビア語の能力は留学前は辞書を使いつつ新聞を読むことができたレベルで、会話はたどたどしい状態だったのですが、四か月たつころには普通に会話できるようになりました。というのも授業が会話主体で発言が求められる環境だったので、自発的にしゃべるように心がけていたからだと思います。帰る直前になるとリーディングの速度がかなり早くなり、スピーキングに関しては通訳は厳しいが観光ガイドならできるレベルになりました。留学前は一年後ペラペラ喋ってリーディングも完璧にしてやると思っていたのですが、終えてみると思っていたほどアラビア語ができるようにはなりませんでした。個人差はあると思いますが、言語を習得するには一年では足りないというのが率直な感想です。

日本人会の行事やソフトボールリーグへの参加を通してクウェートで働く日本人の方々ともお話しする機会が多くありました。海外で働く人はその国の専門家か、言語がわかる人が選ばれるのかなと留学前は思っていたのですが、クウェートにいる日本企業の方々はそうではないことが多かったです。アラビア語がわかる人はほとんどいませんでした。英語とアラビア語の通訳を雇い、日本人は英語で仕事をするそうです。語学は通訳で、仕事内容に精通しているほうが大切なようです。これならアラビア語がわかれば中東で働くのに非常に有利かなと思いました。

終わりに

この一年でたくさんのことを学ぶことができました。

様々なバックグラウンドをもつ人の中で一年間一緒に暮らしたことで、いろいろな考え方や生活習慣の違いを受け入れることができるようになったし、将来海外で暮らすための心構えができました。今回の経験は人生の財産になったと思います。

この体験記がクウェート政府奨学金に興味がある方々の参考になればと思います。留学中にお世話になった在クウェート大使館やクウェート大学の皆様へのお礼に変えて締めとさせていただきます。